

令和 7 年度仙台市認知症施策における新規の取組みの状況

1 仙台版チームオレンジ

- ・仙台版チームオレンジとは、認知症の人と家族のやりたいことや困り事に対して、認知症サポーター及び認知症パートナー等が認知症の人や家族とともに活動し、地域で支え合いながら、認知症の人と家族の想いをかなえる活動へつなげる仕組みである。
- ・仙台版チームオレンジの特長は、「支援する」「支援される」の関係性を超えて、「認知症の人とともに活動する」取組みであることを明確に打ち出している点である。

【目的】

- ・認知症の人と家族とともに、地域で支え合いながら、みんなが輝き、笑顔で生きることができる共生社会づくり。
- ・活動をとおして、チームメンバーだけでなく、活動する地域全体へ「新しい認知症観」を広げ、「認知症とともに笑顔で生きる仙台」をつくること。

【実施状況】

- ・令和7年6月と8月に認知症の人、家族、オレンジチューター、地域包括支援センター職員、区役所職員等でワーキングを2回実施。仙台版チームオレンジ立ち上げに向けて、理念や目的等を検討した。また、ワーキング以外でも認知症当事者ネットワークみやぎ主催の「リカバリーカレッジ」(認知症ご本人などによる学び合いの場)や認知症の人と家族の会宮城県支部主催の「本人・若年認知症のつどい【翼】」、地域の認知症カフェ等に参加し、直接認知症の人とその家族の声を聴き、仙台版チームオレンジ立ち上げに向けて検討を重ねた。
- ・令和7年9月に「仙台版チームオレンジ設置要領」を策定し、仙台市ホームページに仙台版チームオレンジについて掲載を行った。
- ・仙台版チームオレンジ設置について、機能強化専任職員ミーティング等を通じて地域包括支援センターへ情報共有し、関係各所へヒアリングを実施した。
- ・令和7年11月27日(木)に、初めて登録する4団体を対象に市長参加の登録証交付式を開催。登録証の他、仙台版チームオレンジのバッジとステッカーを配布した。



仙台版チームオレンジ登録証交付式の様子



仙台版チームオレンジバッジ及びステッカー

【今後の取組】

- ・仙台版チームオレンジの拡充に向けて、地域包括支援センター等関係機関と連携し、効果的な取組について検討を行う。
- ・各登録団体のチーム員同士が活動状況・課題等の共有を行う「仙台版チームオレンジ情報交換会(仮称)」を開催する。認知症サポーターや認知症パートナーに情報交換会への参加を呼び掛け、活動を希望する・興味を持っている人に向けて、仙台版チームオレンジに参加するきっかけづくりの機会とする。

2 「新しい認知症観」の普及啓発

(1) 市民向け映画「オレンジ・ランプ」上映会

【目的】

- ・新しい認知症観を広げるとともに、認知症当事者の視点から誰もがよりよく生きられる共生社会づくりを考える機会とするため、仙台市認知症対策推進会議委員である丹野氏の実話をモデルとした映画「オレンジ・ランプ」上映会および認知症当事者等によるアフタートークを市民向けに実施する。

【実施状況】

- ・令和8年1月23日(金)14:00～16:00 せんだいメディアテークにて実施。
- ・周知チラシを作成し、地域包括支援センター、各区・総合支所、認知症疾患医療センター、市内病院・クリニック、市民センター等へ配布、掲示を依頼するとともに、市政だよりに掲載。申込開始初日に申込が定員160名に達したため、受付を終了した。

【今後の取り組み】

- ・アンケートを集計し、上映会の実施による効果等の分析を行う。また、仙台市ホームページ等を活用し、映画鑑賞後の気付きや感想等、市民の声を発信する。

(2) 「新しい認知症観」を広げるための動画普及啓発

【目的】

- ・「新しい認知症観」を広げるため、令和5年度及び令和6年度に制作した動画を活用し、幅広い世代への普及啓発を行う。

【実施状況】

- ・動画普及啓発のチラシ及びポスターを地域包括支援センター、各区・総合支所、認知症疾患医療センター、市内病院・クリニック、市民センター等へ配付、掲示を依頼。
- ・地域包括支援センター、区・総合支所、健康福祉事業団介護研修室等に動画のDVDを配付し、包括圏域会議、介護予防教室、認知症サポーター養成講座等で活用いただく。
- ・認知症に関連するイベント、市政出前講座、研修等の機会を活用して動画を周知。
- ・令和6年度に制作した「活躍する認知症のご本人動画」のショートバージョン(15秒)を作成し、各区および宮城総合支所に戸籍住民課モニターへの掲載を依頼。令和8年1月5日から同月31日までの1か月間の掲載を予定している。
- ・令和7年12月17日現在、令和5年度及び令和6年度に制作した動画5件のYouTubeでの再生数の合計は10,843回。



「活躍する認知症のご本人動画」
ショートバージョン(15秒)
サムネイル

【今後の取り組み】

- ・引き続き、認知症に関連するイベント、市政出前講座、研修等の機会を活用して動画を周知するとともに、関係団体の協力を得て周知を図る。

3 生活の工夫講座モデル事業

【目的】

- ・診断後、不安や孤独を感じている認知症の人や家族が、希望を持って暮らしている認知症の先輩と出会う機会をつくり、本人と家族の認知症観を広げ、必要な社会資源へつながるきっかけをつくるため、実際に生活の中で工夫していることや、認知症とともに生きていく上での心構えなどを学ぶ講座のモデル事業を実施する。

【実施状況】

- ・令和7年7月に認知症の人、作業療法士、地域包括支援センター職員、区役所職員等とともに第1回ワーキングを行い、講座内容や周知方法等を検討した。また、ワーキング以外でも「リカバリーカレッジ」「本人・若年認知症のつどい【翼】」等に参加し、直接認知症の人とその家族の声を聴き、講座の開催に向けて検討を重ねた。
- ・講座のチラシを作成し、地域包括支援センター、各区・総合支所、認知症疾患医療センター、市内病院・クリニック等へ配布、生活の工夫に興味のある認知症及び軽度認知障害(MCI)の方とその家族への講座のご紹介を依頼した。
- ・令和7年 12 月1日(月)認知症の人とその家族及び作業療法士が講師となり、生活の工夫講座を開催。認知症及び軽度認知障害(MCI)の人とその家族6組 10 名が参加した。

○講座プログラム

- ・講師が実際に行っている生活の工夫紹介
- ・グループワーク
 - ※ 認知症又は軽度認知障害(MCI)の人のグループと家族のグループに分かれ、「最近困ったこと」とそれに対してどのような工夫ができるか話し合いを行った。
- ・相談窓口や本人ミーティング等の紹介



講師(認知症の先輩)

自分なりの小さな工夫や
認知症の仲間とのつながりは、
安心につながる。
できることは、まだまだある。
ゆっくりでもいい、
自分らしく笑顔で歩いていこう。

- ・令和7年 12 月に認知症の人、作業療法士、地域包括支援センター職員、区役所職員等とともに第2回ワーキングを行い、講座のアンケート結果等を確認。講座の改善点等について検討を行った。

【今後の取り組み】

- ・講座では、認知症の人と家族から「本人同士で話ができ良かった」「親しみの広がりの中での会話がとても嬉しかった」「同じ内容で悩んでる方のアドバイスがあって良かった」「また開催してほしい」等の声が寄せられた。本格実施に向け、今後はより効果的な講座の実施方法について検討する。

4 認知症バリア解消に向けた検討

【目的】

- ・認知症の人や家族、地域の方の生の声を認知症施策へ取り入れるための仕組みをつくり、認知症バリアを把握するとともに、その解消に向けた取り組みを推進する。

【実施状況】

- ・令和6年度より、認知症地域支援推進員等を中心に、「認知症の本人・家族・地域の方の声を聴くシート」を活用し、「本人等の何気ないひとこと」の記録・集約を開始。
- ・声を聴く対象は、認知症の本人(軽度・中等度・重度すべて)・家族・地域住民・医療介護専門職等。
- ・集約した1300件の声を、「認知症当事者ナレッジライブラリー^{※1}」の11項目に分類。
- ・令和7年8月と10月に認知症の人、家族、作業療法士、学生ボランティア、地域包括支援センター職員、区役所職員等でワーキングを実施。ワーキングメンバーで「気になる声」82件をピックアップし、①新しい認知症観を広げる「カギ」と②認知症バリアの2つに分類し、解消に向けたアイデアを出し合った。

※1 認知症当事者ナレッジライブラリー:「認知症未来共創ハブ」が運営する、認知症のある方の発症から現在までのあゆみ、喜びや実現したいこと、日常生活の困りごとや苦勞(生活課題)と背景にある心身機能のトラブル、これとつきあう暮らしの知恵を、ご本人の「語り」に基づいてまとめたデータベース。

表1:声の分類件数

声の分類分け件数	衣	食	住	金	買	健 (健康)	移 (移動)	交 (交流)	遊	学	働
新しい認知症観を広げる「カギ」	2	1	1	2	5	3	3	20	1	5	3
認知症バリア	0	0	2	0	3	15	2	6	0	7	1

○『交流』に関する新しい認知症観を広げるカギ(一部抜粋)

- ・(本人)周りの人は私に遠慮せず、今までどおり普通に話してくれるから、自分が認知症ということも忘れてます。
- ・(本人)ボランティアに参加することで、自分のためになっているんだ。10歳は若返った気分なんだよ。誘ってくれてありがとう。
- ・(介護家族)同じ境遇の人の話を聞くと参考になった。母にも気持ちいいと思える環境をつくりたい。

○『健康』に関する認知症バリア(一部抜粋)

- ・(本人)(レビー小体型認知症で幻覚が見えることについて)自分にしか見えていないものを同居する妻に騒いでも見えていないんだから分かってもらえるわけじゃない。だから言っても仕方ないから自分の中で処理をして我慢するしかない。
- ・(介護家族)身内だからこそ、認知症ではないと思いたくて受診が遅れてしまう。

○その他、ピックアップされた声(一部抜粋)

〔本人〕

- ・もの忘れをしているのを周りに人に気付かれるのが恥ずかしい。それを指摘しないで欲しい。変ななぐさめの言葉は欲しくない。
- ・診断直後はしゃべる所がなくなり、家にこもってしまった。更に気持ちが悪かった。
- ・認知症の理解がない。認知症には段階があることを知ってほしい。今世の中の情報は重度のものばかりである。それを伝えられる仕組みが欲しい。

[家族]

- ・夫が認知症になってから何もできないと思っていた。この間、些細なことだけど「冷蔵庫からアイスクリームを持ってきて」と頼んだら持ってきてくれた。何もできなくなると思っていたのは間違いだった。小さいことでも頼りにしていいと思った。うれしかった。
- ・本人は施設にも、周りにすごく大事にされている。家族の支援がない。
- ・サロンなどの集まりがあったとしても、認知症の家族を置いて集まりに行ったり家を離れたりすることは難しい。

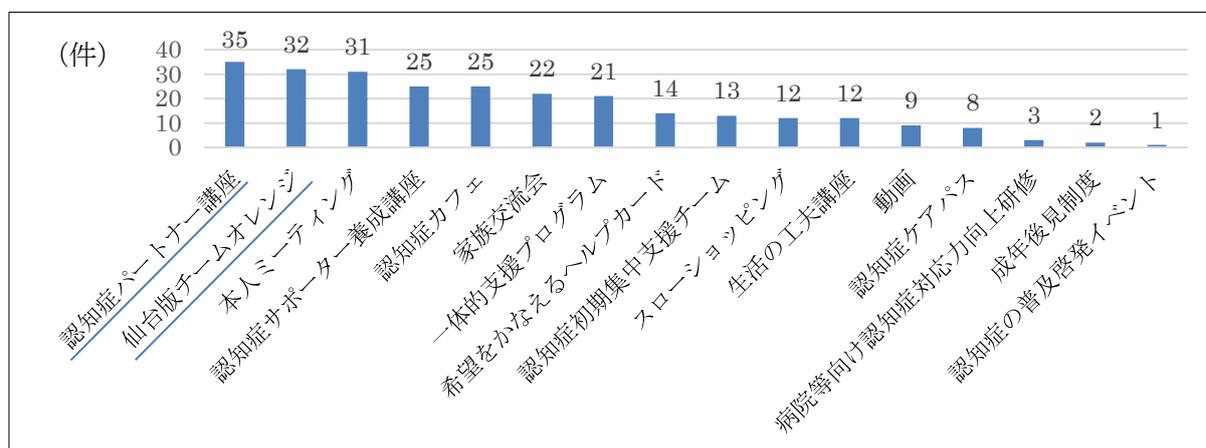
[地域の人]

- ・サロンの日には覚えられないけど、前の日と、当日の朝に電話で声がけて、来られているね。
- ・新しい認知症観というのをよく見たり聞いたりするようになったけど、いまいちピンとこないね。

○バリア解消のための方策・アイデア

- ・意見を収集したことで、各事業がどれだけニーズがあるかを集約することができた。既存事業のさらなる推進、伝えたい要素を盛り込んだ内容への改善、周知の強化などに取り組んでいく他、これまで漠然としていたニーズが明確化し、新たな啓発媒体、イベントや研修会などのアイデアが出た。

表2:ワーキングで出し合ったアイデアから抽出した強化すべき既存事業



- ・認知症パートナー講座を多くの方に受講いただき、「本人との対話」「声を聴き、本人ができることは一緒に取り組み、できないことがあればサポートする」ということの理解を広げる。
- ・仙台版チームオレンジが広がっていく事で解決できる認知症バリアがあるという点に大きな期待がある。

○既存事業以外のアイデア(一部抜粋)

- ・受診への不安解消につながる『受診のきっかけ集』があったらよい。
- ・本人ミーティングでの声を一般市民に聴いてもらう機会があれば、新しい認知症観が広がるのではないか。
- ・自宅にいても家族が他の家族と交流できるよう、オンライン家族交流会があったらよい。
- ・生活の工夫について学べるよう、展覧会等のイベント実施や「生活の工夫すごろく」「生活の工夫カルタ」等の媒体の制作。

【今後の取組】

- ・令和7年度ワーキングで出たアイデアをもとに、課題解決に向けて、①すぐに取り組めるもの(取り組んでいるもの)②既存事業の工夫や改善、周知の強化が必要なもの③新たな取り組みが必要なものに整理し、可能なものから、実現に向けて進めていく。

5 認知症の人が安心して買い物ができる体制づくり

【目的】

- ・認知症の人等、買い物に不安を抱いている方が感じている「買い物に対するバリア」を解消し、本人の意思が尊重された「安心して買い物ができる体制」をつくるため、ゆっくりと、本人のペースを大切にスローショッピングやゆっくりレジ(スローレジ)の普及を図るとともに、「スローショッピング・ゆっくりレジ研修会」を実施する。

【実施状況】

- ・スローショッピング・『ゆっくりレジ・スローレジ』の拡充に向けて、認知症の人、家族、認知症対策推進会議委員の福井氏、学生ボランティア、地域包括支援センター職員、区役所職員等でワーキングを2回実施。研修会の内容や、スローショッピング実施にむけて検討を行った。
- ・商業施設等事業者に対するヒアリング及び意見交換を行った。認知症の人にとっての買い物の意義や買い物時に生じる認知症バリアを伝えるとともに、認知症施策(スローショッピング・認知症サポーター養成講座・希望をかなえるヘルプカード等)について仙台市の取組を紹介し、理解促進を図った。
- ・令和7年10月17日(金)に、「スローショッピング・ゆっくりレジ研修会」を開催。スローショッピングの第一人者である紺野敏昭氏、認知症のご本人とご家族、「ゆっくりレジ」を実施しているみやぎ生協担当者が講師として以下のプログラムを実施。参加企業は6社、参加人数は19名であった。
 - ①「スローショッピングのすすめ～認知症の人にとっての買い物の意義と認知症バリア～」
 - ②「認知症当事者の視点から買い物を考える」
 - ③「ゆっくりレジをはじめとする認知症や高齢者の方への取組について」
- ・令和7年11月18日(火)に南中山地域包括支援センター主催で、ヨークベニマル南中山店にてスローショッピングを開催。認知症の当事者2名と認知症サポーターや認知症パートナーのボランティアが3名参加した。



スローショッピング・ゆっくりレジ研修会の様子

○スローショッピング・ゆっくりレジ研修会に関する評価(参加企業より)

- ・「とても学びになった」「偏見の気持ちが無くなった」等、概ね好意的な評価であった。
- ・参加企業担当者全員から、「認知症の方を含む高齢者等への対応について新たな気づきがあった」と回答があった。
- ・今後各企業にて取り入れたいと思ったことについて、「ゆっくりレジの導入」・「スローショッピングの導入」・「店舗スタッフへの研修(認知症サポーター養成講座など)」・「店内表示の改善(わかりやすい案内など)」・「地包括支援センター等との連携」等の回答があった。

○スローショッピングに関する評価(参加した認知症の人より)

- ・普段は買い物に1時間位かかる。今回は30分位で買い物ができ、お話ししながら買い物をするのはとても楽しかった。(認知症の人)。
- ・思い出の品(キャラメル)を買いながら、思い出話をして楽しかった。またこうした取組を行ってほしい(認知症の人)。

【今後の取組】

- ・商業施設等事業者へアプローチする際に、行政職員だけではなく認知症の人とともに訪問する等、より深い認知症への理解促進に向けた取り組みを検討する。
- ・スローショッピング開催場所や実施回数の拡大、ゆっくりレジ導入店舗の増加、認知症サポーター・認知症パートナーがスローショッピングに参加しやすい環境の整備等、認知症の人を含め、買い物に不安を感じる方がゆっくり安心して買い物ができる体制づくりを推進する。

6 認知症の人と家族への一体的支援プログラムの実施

【目的】

- ・認知症の人と家族が希望を持って暮らし続けることができるよう、家族をひとつの単位とした支援を行い、他の家族との出会いによる自然な学びを得て、家族の関係性の再構築や良好な家族関係の維持調整に役立つプログラムを実施する。

【実施状況】

- ・令和7年度より実施拠点を4か所に拡充。
- ・令和6年度モデル事業と情報交換会の結果を踏まえ、運営者および参加者による評価指標を作成（認知症介護研究・研修仙台センターが中心）し、令和7年度より活用開始。
- ・「認知症の人と家族への一体的支援プログラムを広げていくためのワーキング」を令和7年10月に実施（令和8年3月に第2回実施予定）。認知症の人と家族、学識経験者、一体的支援プログラム運営者、認知症介護研究・研修仙台センターとともに、評価指標や家族への支援方法等について検討を行った。
- ・新たな実施拠点の可能性を探るためヒアリングを実施。

○プログラム実施・業務委託

- ・小規模多機能型居宅介護事業所マイムケア（①長町エリア 及び ②河原町エリア）
- ・仙台市認知症疾患医療センター（③東北福祉大学せんだんホスピタル ④いずみの杜診療所）
（各1～2か月に1回程度実施）

○プログラム運営支援・業務委託

- ・認知症の人と家族の会 宮城県支部（本人・若年認知症のつどい『翼』）

○参加者の感想(実施中の声より)

- ・(本人)ここではいい気持ちでいられます。これからもよろしくお願いします。
- ・(本人)同世代と集まるのがいい。
- ・(本人)家族と一緒に参加できるのがいい。
- ・(家族)本人がこの会に来るのを楽しみにしていて、私自身も嬉しい。
- ・(家族)お話を聴いたり、聴いてもらったりしてとても良い時間だった。
- ・(家族)皆さんそれぞれの状況があり、それが見える事で参考になると思う。
- ・(家族)母をしょっちゅう検索している毎日だが、同じ境遇の方たちと笑い話ができている。
- ・(家族)介護サービスはよく分からないので、この会で知り合った人から色々教えてもらえて良かった。
- ・(家族)介護のためにUターンで仙台に住むようになり、友人も少ない中、ここで知り合いができて良かった。

【今後の取組】

- ・評価指標の結果を踏まえた、プログラムの評価・改善。
- ・実施先のさらなる拡充に向け、地域包括支援センターをはじめとする関係機関へ、本プログラムの意義等の理解促進を図る。
- ・一体的支援プログラムを広げていくための情報交換会の場等を検討する。

7 軽度認知障害(MCI)について普及・啓発

【目的】

- ・令和6年12月に策定された「認知症施策推進基本計画」に示されているとおり、「認知症及び軽度の認知機能の障害に関する知識並びに認知症の人に関する理解を深めること」を推進するため、認知症のみならず軽度認知障害(MCI)についても、広く市民に周知啓発する。

【実施状況】

- ・介護保険料決定通知書へMCI及び認知症に関するお知らせ((MCIの説明・認知症ケアパス・認知症とMCIの相談窓口))を同封。
- ・全市版認知症ケアパスや、仙台市ホームページによって、早期に相談先へとつながれるよう周知啓発を行った。
- ・令和7年度より地域包括支援センターや各区・各総合支所及び物忘れ電話相談における、MCIの相談件数の計上を開始。

【今後の取組】

- ・引き続き仙台市ホームページや介護保険料決定通知書へお知らせを同封する等、MCI及び認知症について広く市民へ普及啓発を行う。
- ・MCIに関する相談件数や相談内容等から現状を把握し、課題解決に向けた方法等を検討する。